

開催日 2021/8/4

議 事 録

件名 ファッションビジネス科 教育編成委員会ミーティング

日 時	2021年8月4日
場 所	東京服飾専門学校(3階ホール1・2教室) 豊島区巢鴨1-19-7
出 席 者	株式会社アズノウアズ 人事・総務部マネージャー 中村 潤様 株式会社ステップス 常務取締役 採用教育部長 塚田龍一様(都合により欠席) 有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田えりこ様(都合により欠席) 株式会社クレヨン営業本部人事部マネージャー 山田 雄祐様(都合により欠席) ソーイングアサヒ株式会社 代表取締役 高橋英一朗様(都合により欠席) 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会 境泰志様(都合により欠席) 山下節子 梨本雅子 福嶋哲平 吉岡文子 副田勝久
欠 席 者	5名
概 要	1.次年度における学科カリキュラムの編成、留意点について検討。 2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整
内 容	開会の挨拶 副田より進行を行う。梨本先生を書記に指名。 ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へどう努力すべきか。 ・今回の教育編成委員会の目的と議事項目 ・参加者紹介 1.これまでのご意見・提案について 副田「前回(3月)はコロナによる緊急事態宣言下のため、集まりはなく、アンケート等による意見交換であった。これまで、株式会社アズノウアズ様や株式会社ステップス様等の企業の方々よりいただいた貴重な提案やご意見などを確認をしたい」 吉岡「アズノウアズ様からは今後の産学連携授業について、プレゼンテーション能力を高めることに意識を向けるか、ファッションにもっと特化させるべきかを判断していきたいとのご意見があり。」 吉岡「ステップス様からは、授業ではECを希望する学生も多いためテーマとして選ばせていただいた。今後は実際の仕事の内容、人との接し方も含めて、シビアな話も交えつつ、損益に関わる数字なども入れ込み、利益の話やコストの話なども交えていきたい、とのご意見を頂戴した。」 副田「前はコロナ感染症拡大により展示会や店舗見学・実習の機会が減少して実践的な教育の機会が失われた。一方でオンラインを活用した取り組みが産学連携授業でも見られ、新たな教育手法の開発の機会でもあった。」 2.ビジネス科の産学連携授業について 副田「AO入学希望者の面談が始まっていますが、ビジ科希望の高校生は販売を希望している子が多い傾向。これまではビジ科でも販売職に難色を示す学生もいたので良い傾向だと思う。また、職業実践やショップ起業実習に興味を持って本学を希望している高校生も多い。」

内容	梨本「校内的にはECやWebに関連した学びを希望する学生が多くなっている。」 梨本「ここ数年の中ではキーボード操作を含めたパソコンスキルを持った学生が増えた印象。また、就活に関して、自己PRや履歴書、ESの書き方は習っているが、封筒の宛名の書き方、企業への電話の仕方、メールの送り方等々がわからない学生がとても多い。」 吉岡「企業として産学でのメリットはどこに求めているのか？」 アズノウアズ「最終的にはいい人材を就職につなげるのを求めている企業ばかりだと思うが、就活につながらなくてもブランドの認知度を上げるのを必要としている企業もあるのでは。」 福島「ウィンドウズ中心の授業を行っているが、企業として今後のためにウィンドウズの習得が必要かどうか？」 アズノウアズ「ワードのタッチタイピングはできた方がいい。ほとんどの会社はエクセルを使用している。機体としてはウィンドウズが主流。」 3. 今後の展開 について アズノウアズ「いわゆるインターンとして就業体験をすればいいのか、もっと学校側の産学連携に対しての具体的な要望が知りたい。人事が窓口になっている場合、通常業務が忙しく、産学に力を入れられないのも現実。そうすると、より具体的な要望があったほうが内容を決めやすい。」 副田「以前はあったようですが、企業とタイアップして学生の企画や作品が実際に商品化される等の成果が反映されればモチベーションアップにもつながりそう」 4. 総括 ・感染症の収束後をにらみ、店舗現場での就業体験プログラムの実施も含めたより実践的で就職につながる取り組みをしていきたい。 ・産学連携・職業実践講座を通して、プレゼン能力、マナーや一般常識、コミュニケーション能力等を高めて円滑に就職活動ができるよう精度を高めていきたい。
添 付 資 料	
決 定 事 項	
課 題 事 項	
次 回 日 程	2022年2月
特 記 事 項	

作成者

副田